令和８年度　授業改善推進プラン＜生活科・社会科＞

生活・社会	課題分析 （思考力・判断力・表現力）	授業改善策
1年	【身近な生活への関心・気付き】 ・身近な自然や社会に対して関心をもち、見たり触れたりする活動はできるが、その体験を言語化して表現することが難しい。 ・活動を「楽しい」で終わらせてしまい、気付いたことや学びに結び付けにくい。	・目的を明確にし、活動の前後で「予想→観察→振り返り（分かったこと）」の流れを明確にし、児童が考えたことを簡単な言葉や絵で表現できるようにする。 ・ワークシートや写真、絵日記などを使って記録し、自分の言葉で表現する機会を増やす。
2年	【生活の中のつながり・発見】 ・地域の人や自然との関わりを実感しながら活動することはできるが、体験をもとに自分の生活とのつながりを考えることが難しい。 ・インタビューや見学の結果を整理して発表する力に課題がある。	・体験活動の前に「どんなことを聞きたい？調べたい？」という問いを立てさせ、見学後に「発見」や「驚き」を整理する活動を入れる。 ・写真やメモを活用しながら、発表カードや新聞づくりなどの形で伝える力を養う。 ・グループで話し合い、友達の考えと比較する場面を設けて、気付きや視点を広げる。
3年	【社会的事象の見方・考え方】 （地域の様子・人々のくらし） ・自分の住む地域について、地図や資料を使って調べることはできるが、課題意識をもって調べようとする力が弱い。 ・地域の特色と他地域との違いに気付くことが難しい。	・地域の地図や写真、統計資料をもとに「自分のまちはどんなまち？」という問いを設定し、児童自身が調べ学習の視点をもてるようにする。 ・他地域（他市町村など）との比較資料を提示し、違いや特色に気付けるようにする。
4年	【社会的事象の見方・考え方】 （暮らしとごみ、水のゆくえ、地域の安全など） ・社会基盤（上下水道、防災など）の仕組みに対して、実感をもって理解することが難しい。 ・単なる知識の習得にとどまり、課題とのつながりをもたせにくい。	・実際の施設（浄水場、ごみ処理場など）の写真や映像、模型を使って、仕組みの働きが日常生活にどう影響しているかを具体的に理解させる。 ・見学や地域の専門家による話を通じて、課題を自分ごととして考える学習を展開する。
5年	【社会的事象の見方・考え方】 （日本の国土、産業、環境） ・農業、工業、漁業などの特色や課題について、表面的な知識理解にとどまりやすく、国民生活に果たす役割を考えることが難しい。 ・資料の読み取りから自分の考えを形成・表現することに課題がある。	・聞き取りをしたり、グラフや写真、地図など複数資料を組み合わせ、比較・関連付けて調べたりして考える活動を取り入れる。 ・「なぜこの地域でこの産業が発達したのか」などの問いをもとに、考えたことを図や文章で表現させる機会を増やす。
6年	【社会的事象の見方・考え方】 （歴史・政治・国際理解） ・政治の仕組みを自分の生活と関連付けて考えることが難しい。 ・捉えた歴史上の事象をもとに歴史の展開を考えることが難しい。	・選挙や法律などを扱う際、模擬投票やロールプレイなどを通じて、身近なこととして捉えられるようにする。 ・時代ごとのつながりを年表や因果関係図を用いて整理し、「変化」や「連続性」に注目させる。